

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

三春わが街

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

■コミュニティだより

VOL. 50 (年4回発行)

- 発行日 平成20年9月1日
- 発行 三春まちづくり協会
- 編集 三春まちづくり協会広報部会
三春町字大町178 (旧公民館内)
TEL/FAX (62) 3988

もう一度見直そう。ごみの分け方、出し方。

7月9日(水)「もう一度見直そう。ごみの分け方、出し方」というテーマで第4回の定期出前懇談会が開催され、住民税務課・清掃センターの真壁所長、渡辺所長代理、渡辺主任主査の3名から三春町のごみの現状や課題についての説明がありました。

三春町でごみの分別収集が開始されたのは、平成7年の9月からです。その後、何度か収集方法などに変更がありましたが、平成18年4月に田村西部環境センターができてから、特にプラスチックごみに関する取扱いが大きく変わりました。

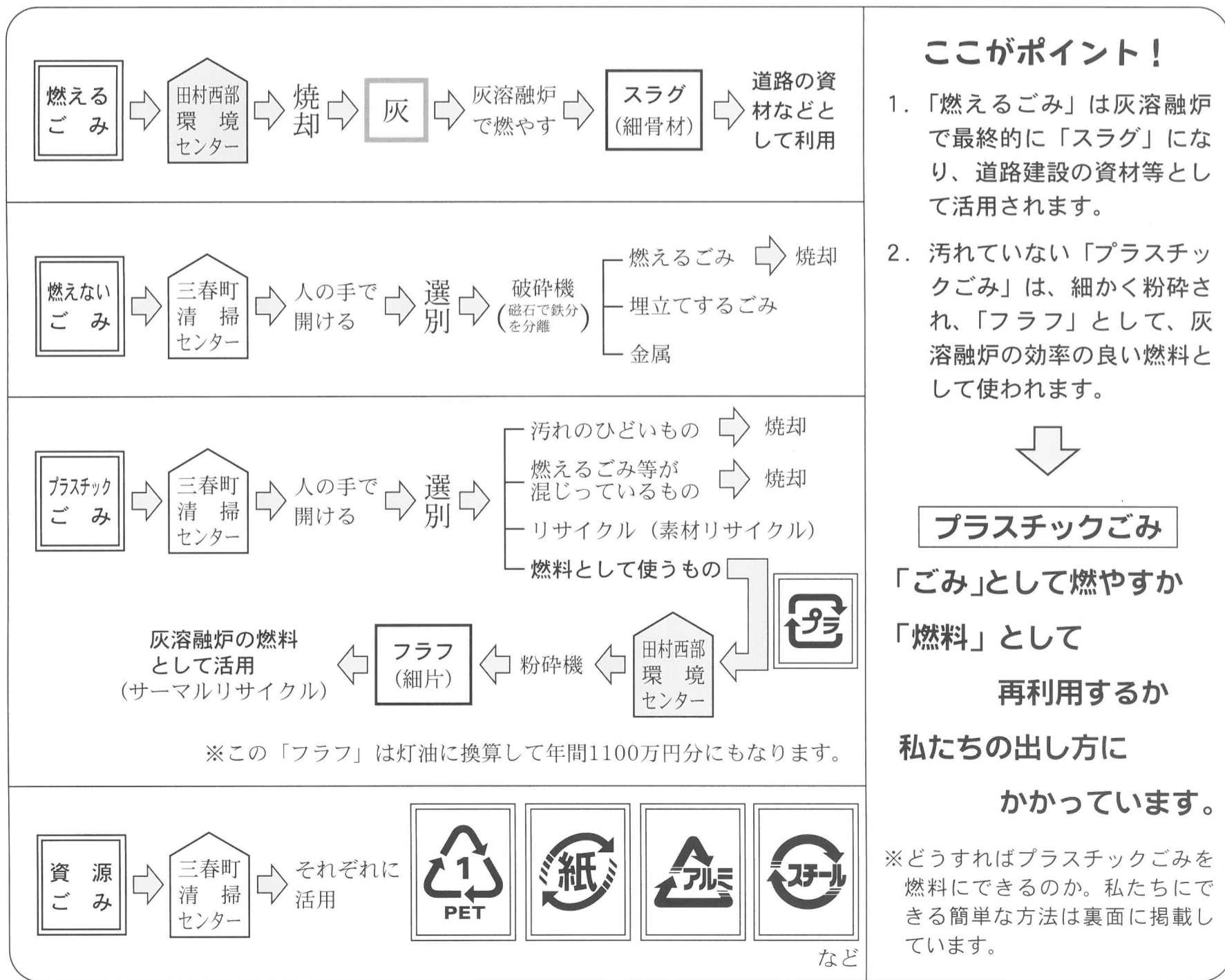
以前、講習を受けたり、見学をしたりして得た「ごみ」に関する私たちの知識が、現状に合わなくなっている部分も多いようです。

今回の懇談会を受け、再度清掃センターに取材をして、疑問点を明らかにしました。



三春町の「いま」のごみに関する考え方、処理の仕方をレポートします。

◎まず私たちが集積所に出したごみが、どのように処理されているのかを見てみましょう。



ここがポイント!

1. 「燃えるごみ」は灰溶融炉で最終的に「スラグ」になり、道路建設の資材等として活用されます。
2. 汚れていない「プラスチックごみ」は、細かく粉碎され、「フラフ」として、灰溶融炉の効率の良い燃料として使われます。



プラスチックごみ

「ごみ」として燃やすか
「燃料」として
再利用するか
私たちの出し方に
かかっています。

※どうすればプラスチックごみを燃料にできるのか。私たちにできる簡単な方法は裏面に掲載しています。

◎「プラスチックごみ」として分別する基準は

- ・「固い」「やわらかい」
→区別しません。「プラ」マークがついているかどうかで判断します。
- ・「(紙などが)貼ってある」「貼ってない」
紙(値段ラベル、宛名ラベルなど)が多少混じっていても問題ありません。
- ・「汚れている」「きれい」
汚れているものは水洗いして乾かしてください。
目安は…固形物がついていないこと。
一週間袋に入れておいても匂いがしない程度。
(例外)油、ケチャップがついたもの→燃えるごみへ
- ・「濡れている」「乾いている」
水洗いのあと、乾かしてください。

◎「プラスチックごみ」の袋 5箇条

1. 燃えるごみ、生ごみ、燃えないごみなどを決して混ぜない。
2. 「プラ」表示を確認する。
どちらか迷ったら「燃えないごみ」の袋に
3. 汚れているものは必ず水で洗う。固形物が残らないように
4. 水気は切る。
5. 油、ケチャップの付着しているものは燃えるごみへ。

この5つを守れば、プラスチックごみは粉碎されて、燃料(フラフ)として、再利用されます。
この中のひとつでも守られなければ、あなたの出した袋は、重油を使って焼却されるただの「燃えるごみ」となってしまいます。
私たちのちょっとした心がけしだいで、プラスチックごみを「燃料」にするか、「ごみ」にするかが決まるのです。

◎集積所のごみはどのような場合に「取り残し」となるのか

- ・収集日が違う場合
例えば、燃えないごみ(月1回収集)を指定日以外の週に出した場合
 - ・中味が混じっている場合
 1. 燃えるごみの袋に
 - ・汚れたプラスチックが入っている →○収集します
 - ・燃えないごみが入っている →×収集しません。
 2. プラスチックごみの袋に
 - ・燃えるごみが入っている →×収集しません。
 - ・燃えないごみが入っている →×収集しません。
 - ・汚れのひどいプラスチックが入っている →×収集しません。
- ※プラスチックごみの袋に生ごみ、燃えないごみなどが混じっている場合は、袋の重さである程度判断できるそうです。

町民の皆さんは、過去に何度かごみの分別についての説明を受けていると思います。

三春町清掃センターや、田村西部環境センターを見学した方も多いことでしょう。

皆さんそれぞれに、ごみの分別収集に関する知識を持って、日頃ごみを出しているものと思いますが、今回の取材を通じて、もう一度よく見直さなければいけないと感じました。

例えば、「ペットボトルの外装フィルム」について、以前は「はがさない」ということでしたが、今は「できるだけはがす」ということになっています。「ペットボトルのふた」についても、以前は「燃えないごみ」でしたが、今は「プラスチックごみ」です。

今回ひとつひとつ具体例をあげるには紙面が足りませんが、出したごみがどう処理されるのかを理解し、なんのために分けているのかを理解すれば、分別で悩むことも少なくなるのではないかと思います。

なお、詳しくは三春町清掃センター(62-6123)へお問い合わせください。



まほらっこ三春教室へホワイトボード贈呈の様子

コーデイネーター(活動の企画策定を担当)をして大森さんから色々とお話を聞き、子供達が話をした時にはすばやく病院に連れて行ったりとその行動に感心しました。毎日数名のボランティアの方にお世話になり三春教室六十八

生涯学習部会
まほらっこ三春教室を見学して！

見学して！

六月十二日(木)に部会として計画していた「まほらっこ教室」を見学して実態を研修してきました。教室に入って最初に目に映ったのは楽しそうに遊んでいる子供達の姿でした。本当の家族の様にボランティアの方と笑いながら折り紙をしたり真剣な顔で将棋をしていました。私は思わずほっとした気持ちと心の中が熱くなるのを感じました。

福祉部会

元気で健やかに暮らせる
街づくり活動！

福祉部会では前年度に続き「町民の誰もが、いつまでも健やかに、そして明るく元気に過ごせる街づくり」を目指して活動を進めています。

七月十七日、みはる広報でおなじみの福島県立医科大学地域・家庭医療部教授町立三春病院勤務、葛西龍樹先生を再びお招きして、ご指導を頂き、健康づくりを具体的にすすめるための勉強会を開催しました。

葛西先生は、健康なときから医者と一緒！医者を使うまく使って！と仰っています。一人では、なかなか継続出来ない事も仲間がいれば継続できるというわけで、「健康サイクル」健康教室を葛西教授の具体的な指導を受けながら繰り広げています。

「健康サイクル」とは、生活している中で気づく色々な気がかりな問題を整理していく中で、一番気がかり

部会だより

名の子供達は授業が終わったあとに午後四時まで有意義な時間を過ごせるのも三春町を始め多くの関係各位のご支援とご協力のお陰と感謝申し上げます。
(部会長 橋本 俊宏)



グループごとの話し合いの様子

多くの仲間とやれることを楽しみにしています。
次回は、十月三十日(木)を予定しています。
(部会長 田部 敬子)

なものは何なのかを①気づき②気づいた事を改善するためにどうしたら良いか方策を立ててみる③立てた方策に沿ってやってみる④やってみた事を振り返ってみる。振り返ってみる事によって又、新たな事を気づき、新たに気づいた事を改善するために方策を立て直しやってみる。やってみたら又、振り返ってみる。というサイクルを繰り返して発展させながら各自の目標達成を目指す。そして実行している中で、定期的に仲間が集まって経過を発表しあうことにより強い意識付けが出来て継続がより可能となり、目標に到達できるといえるものです。

編集後記

八月を迎えたと思ったら、もうお盆も高校野球も終わってしまった。

今年の梅雨は、空梅雨だった。しかし、昨年比べると早いといわれた梅雨明け宣言が出た後は、何か梅雨特有のむしむしした湿度の高い日が続いたという印象が残っている。

西日本の方は大きな被害が出た大雨に続いて猛暑、六月の岩手・宮城内陸地震で自然災害の怖さを知らされたと思ったら、またまた岩手北部地震と続いた。この辺は災害が少なくないなど思っていたら三春にも突風による被害が出た。自然災害はいつどんな形でやってくるかは分からないだけに始末が悪い。それにしても、猛暑・強風・大雨と異状気象が多すぎるように思えてならない。

散歩をしていると稲の穂、栗の実等が秋の近づきを教えてくれる。災害のない穏りの秋を迎えたいものだ。
(A・O)

コミュニティだより
「三春わが街」第五十号
発行日 平成二十年九月一日
発行 三春まちづくり協会
編集 三春まちづくり協会
広報部 会
三春町字大町一七八
(六二)三九八八